

### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費はさらに弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は悪化しつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_は上方に変更、 \_は下方に変更)

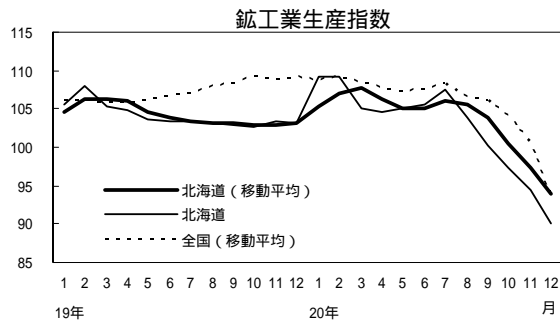
#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成20年11月)	今回(平成21年2月)	
景況判断	やや悪化しつつある	悪化	
鉱工業生産	減少	大幅に減少	
個人消費	弱い動き	さらに弱い動き	
住宅建設	大幅に増加	大幅に減少	
雇用情勢	やや悪化しつつある	悪化しつつある	

#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産物の水揚量は前年を下回っている。  
10~12月期は、生乳生産は、牛乳等向け、乳製品向けがともに増加したため、総量では961,009tと前年比2.1%増となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけやさんまなどを中心に前年を下回っている。

(2) 鉱工業生産は大幅に減少している。  
食料品は、バター、チーズ等の乳製品は増加したものの、塩蔵品等が減少したことから、全体では減少している。パルプ・紙は、新聞巻取紙や塗工紙が減少したことから、全体でも減少している。鉄鋼は、特殊鋼、普通鋼共に生産調整の影響で減少したことから、全体でも減少している。電気機械は、携帯電話、シリコンウエハ、モス型半導体集積回路等が減少したことから、全体でも減少している。金属製品は、鉄塔は増加したものの、鉄骨、橋りょう等が減少したことから、全体では減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品	23.9	2.4	1.6	2.9	6.5
パルプ・紙	10.7	3.3	8.1	7.5	6.0
鉄鋼	8.6	0.2	17.6	16.5	12.7
電気機械	8.4	15.2	20.0	20.8	11.1
金属製品	8.0	2.4	6.5	5.3	10.4
鉱工業	100.0	1.3	9.4	6.2	0.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

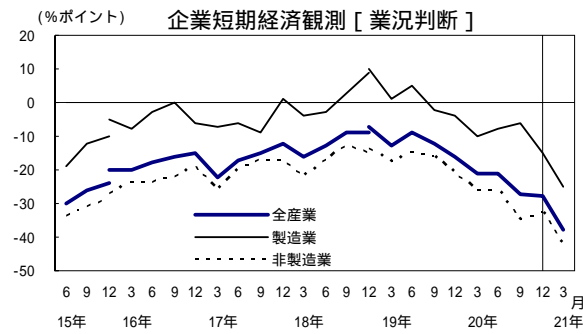
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、北海道の最新月は速報値。

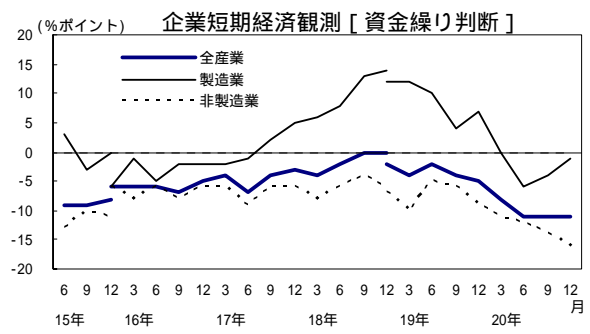
2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

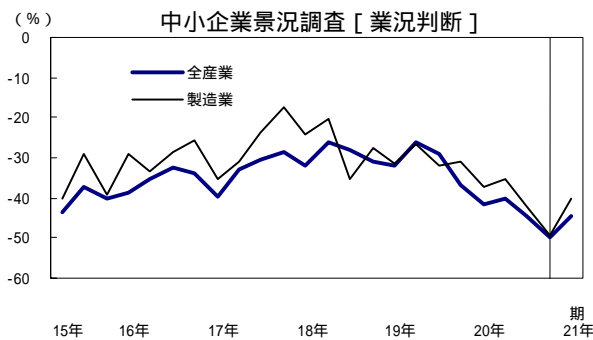
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年3月は予測。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

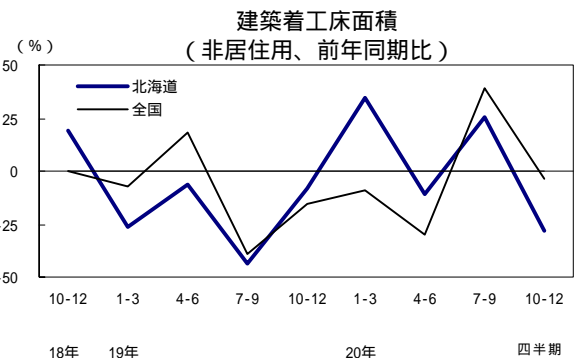
「業界全体で鉄鋼の生産量が1千万トン以上減少している。製紙についても生産量を半減させる工場が一部出てきている。建築については、道内最大となるビルの建設計画が延期されることになったほか、中小物件も延期や中止が相次いでいる(輸送業)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(4) 20年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

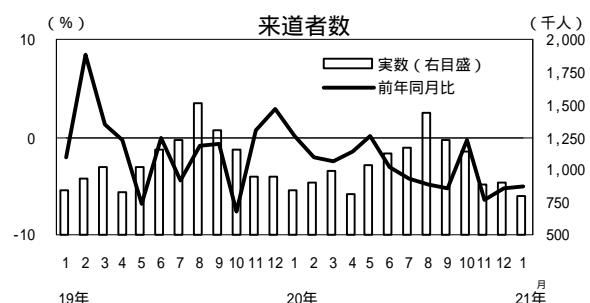
	(前年度比、%)	
	19年度実績	20年度計画
全産業	11.7	3.0( 1.3)
製造業	36.1	15.9( 7.2)
非製造業	0.8	4.9( 1.9)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は、弱い動きが続いている。

来道者数は、航空機の一部路線の減便・廃止もあり、大阪、名古屋方面からの航空客が大きく減少したことから、11月以降、前年を下回った。旭川空港向けは増勢が鈍化しつつも増加基調にあるが、千歳空港、函館空港向けで減少が続いている。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

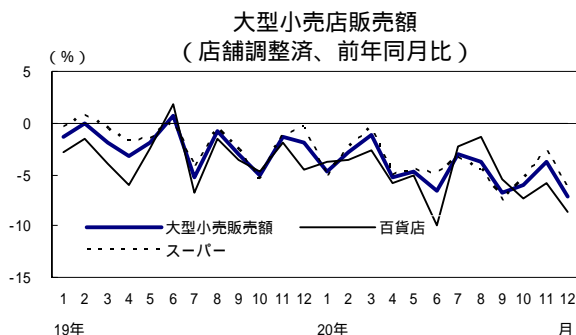
(1) 個人消費はさらに弱い動きとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、菓子、生鮮食品などの飲食料品は堅調だったが、衣料品は、気温が高めに推移したこともありコート等の重衣料が振るわず、身の回り品も高額商品が大きく落ち込み、前年を下回った。11月は、飲食料品は、おせち、クリスマスケーキの予約も順調で、引き続き好調だったが、衣料品は、気温が高く、コートを中心に買控えがみられたため、全体では振るわず、前年を下回った。12月は、クリアランスセールの前倒し効果もみられず、衣料品、身の回り品ともに苦戦し、前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、1月の売上高は、札幌地区で前年同月比5.8%減、札幌を除く北海道地区で同4.1%減となっている。スーパーは、肉などの飲食料品の動きは堅調だったが、気温が高かったことに加え、消費マインドの低下から、衣料品、身の回り品が振るわず、全体としては前年を下回った。

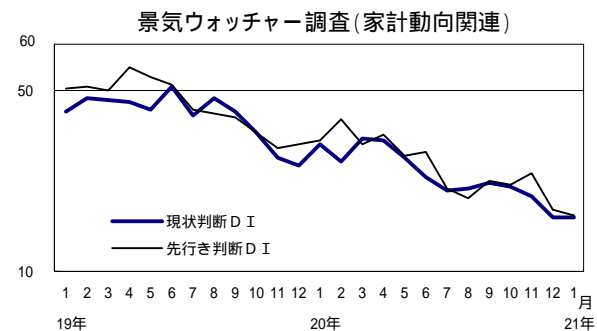
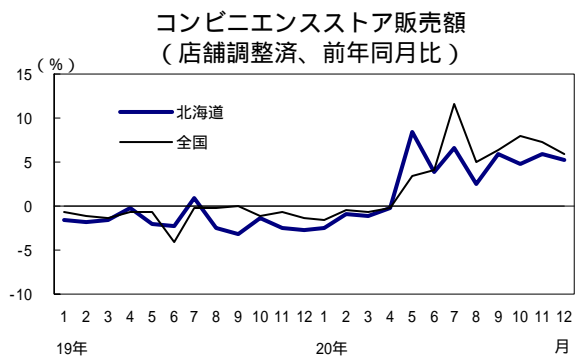
景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「勤務先の業績不安から、新築予定を延期したり、資金計画の見直しを余儀なくされている客がみられる(設計事務所)」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.9	5.5	4.4	5.9
百貨店	3.3	7.0	3.0	7.4
スーパー	2.8	4.8	5.1	5.1
コンビニ	1.5	4.1	5.0	5.3
景気ウォッチャー	37.1	34.9	28.6	25.8

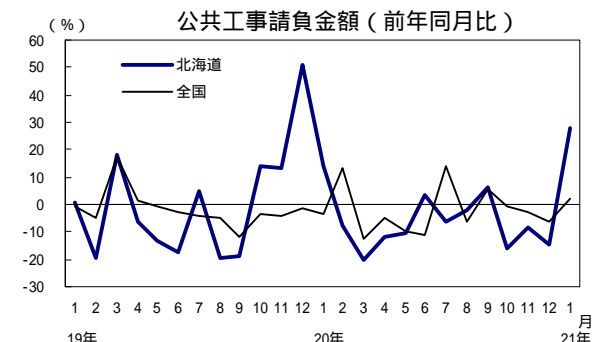
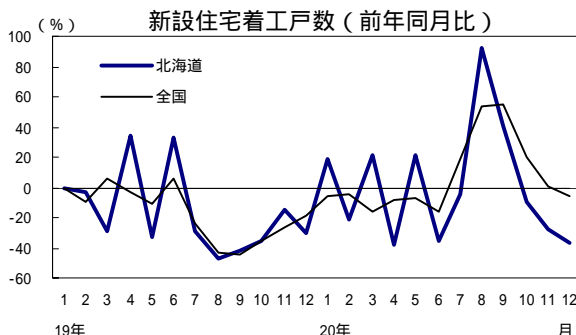
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。  
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を下回っている。



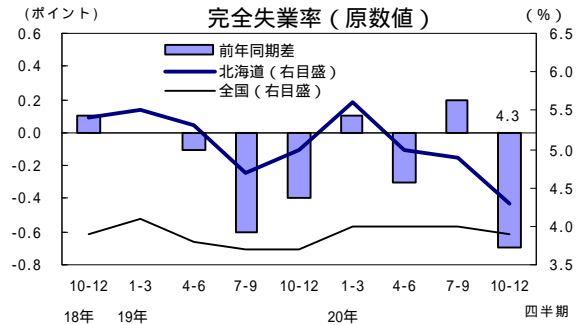
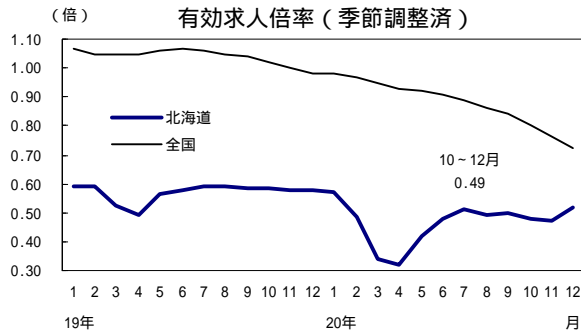
### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率(全数)はおおむね横ばいとなっているものの、有効求人倍率(常用)は前年同期を下回っている。完全失業率は前年同期を下回っている。

有効求人倍率の動きには平成19年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。



景気ウォッチャー調査 (1月) [雇用関連 (現状)]

「本州方面への派遣求人広告は姿を消している。地元の求人件数も伸びが少しずつ鈍化してきている (求人情報誌製作会社)」など「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

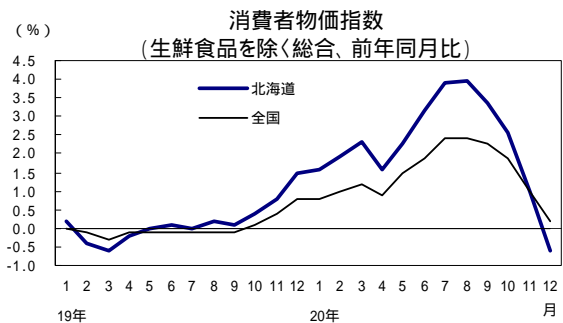
(2) 企業倒産は、件数は大幅に増加し、負債総額は減少している。

1月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	21年1月
倒産件数	168	187	190	189	60
(前年比)	5.7	8.7	37.7	43.2	20.0
負債総額	700	440	706	569	669
(前年比)	40.6	2.0	52.1	30.3	735.8



景気ウォッチャー調査 (1月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・国内ツアー客に加え、海外ツアー客も減少した。冬の観光を支えてきた海外客もチャーター便減便の影響で落ち込み、全来客数の減少幅は前月を上回っている (観光名所)。

<先行き>

・ピーク時からみれば下がったが、エネルギーコストは以前よりも高く、原材料価格も高止まり状態であるなか、取引先であるスーパーなどからは値下げ要求が始まっている。また、販売量、受注量共に急減しており、今後については悪くなる (食料品製造業)。

